

## 2 オンリーワン・ハイスクール（アカデミック・ハイスクール）計画書（報告書）I類

学校名	(学校番号36) 県立静岡東高等学校		目指す学校像	本校は、従前より多くの卒業生が県内大学に進学し、卒業後も県内自治体や公的機関の職員、地元企業や商店経営者、小中高校の教職員等、地域を支える人材を多数輩出している。こうした実績を踏まえ、急速な社会経済の変化で生じる地域課題に対応するため、SDGsを学びの切り口として積極的な探究学習と学びの成果の発信を行う。併せて、課題解決に向け主体的に関わろうとする人材を育てる観点から、従前からの学習や取組を再定義し充実させ、地域の高等教育機関での学びや社会人としての課題解決の取組への接続機能を果たす。また、文部科学省の制度変更の動きを視野に入れ、探究コース・学際コース（いずれも仮称）など、本校の新しい学びを表す学科名への名称変更も検討する。							
学校の課題	市街地から遠い立地、施設老朽化、医療系進学・SSH指定・理工科設置等近隣校の特色化で埋没しがちな理系教育等課題は多い。令和5年度から旧学区内中学生数の減少も進み、スクール・アイデンティティ（学校ブランド）確立と積極的広報が急務である。			生徒の課題	新学習指導要領の三観点から本校生徒を分析した場合、「知識・技能」は義務教育段階での目標をほぼ達成している。それらを土台としてさらに学び、その都度「思考・判断・表現」し、学習成果を外部に発信するなど行動して「学びに向かう力」を高めることこそが最大の課題である。						
3年間で構築する指導体制、教育課程等をどのように進めていくか。年度ごとの取組概要。	<b>&lt;令和3年度&gt;</b> <b>1 探究学習ネットワークの拡張</b> SDGsに関する探究学習を実践しつつ、すでに支援・連携の協力を依頼し承諾をもらっている県立大学を中心に、地域人材をつなぐネットワークを拡張し組織化していく（静大、市役所、NPO等を想定）。 <b>2 探究活動推進室による探究活動の全体像の整理</b> 総探の時間に加え、既存の学習や行事を取り込んだ本校探究活動の全体像を把握体系化し、推進室と他分掌学年との連携や分担を図る。 <b>3 校内程検討委員会による教育課程の検討</b> 学習の深化のため、教育課程検討委員会で「総合的な探究の時間」を補完する学校設定科目や教育課程の研究を行う。			<b>&lt;令和4年度&gt;</b> <b>1 探究学習ネットワークの稼働</b> 本校探究活動への助言と指導を通じて、高等教育機関や地域社会に直結する高校探究活動のメニューを開発する。また、ネットワークから多様な学習の場、発表の場の提供を受け、最大限活用する。 <b>2 探究活動推進室と探究学習ネットワークの連携</b> 本校探究活動の指導計画や学習構成・行事構成について、ネットワークから指導と助言を受け、不断のブラッシュアップをしていく。 <b>3 教育課程の変更と学校の特色化に係る検討</b> 学校設定科目の内容を具体的に検討し、新しい教育課程の試案を策定する。本校の新しい学びを、学校の特色としてまとめる。			<b>&lt;令和5年度&gt;</b> <b>1 探究学習ネットワークの向上</b> 本校探究活動の現状を振り返り、また、探究ネットワークとのより良い連携のために、ネットワークの成果や改善点について検証する。 <b>2 探究活動推進室による振り返り</b> 探究活動の指導計画、学習構成、学習内容、テーマ設定等について実践を振り返り、学習の成果や改善点について検証する。 <b>3 本校の新しい学びの具現化と積極的な広報</b> 本校の新しい学習の特色を踏まえ、それを体現する学科名への変更について検討する。また、適切な手続と手順を確認した上で、地域に向かって本校の新しい学科名や学びを積極的に広報する。				
		初期値		令和5年度目標値		令和3年度実績（評価）		令和4年度実績（評価）		令和5年度実績（評価）	
		1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年
共通指標 ※①③④は、そういう生徒のみ	①家庭学習の中心が自分で必要と判断した学習である生徒の割合（%）	47.90%	29.37%	70%	70%	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	②1週間の家庭学習時間の平均 ※21時間45分の場合21.75時間	12.71時間	13.70時間	21時間以上	21時間以上	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	③自ら進んで、授業に取り組む生徒の割合（%）	38.62%	25.28%	70%以上	70%以上	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	④授業内容等に興味があって学校を選択した生徒の割合（%）	令和3年度入学生 38.02%		令和6年度入学生 70%		令和4年度入学生 % ( )		令和5年度入学生 % ( )		令和6年度入学生 % ( )	
個別の成果指標 ※そういう生徒のみ	社会の様々な課題の解決に向けて、自ら主体的に関わろうと思う生徒の割合（%）		(2年) 12.64% (1年) 30.54%		(2年、1年) 70%以上						
令和3年度要求予算額（オンリーワン・ハイスクール分）			2,000,000円			令和3年度決算額			円		
令和4年度要求予算額（オンリーワン・ハイスクール分）			円			令和4年度決算額			円		
令和5年度要求予算額（オンリーワン・ハイスクール分）			円			令和5年度決算額			円		

※予算、決算及び次ページ以降は、提出時期に応じて加筆していく（令和3年度当初の提出では、黄色の部分に記入する。）。

※次年度の「目標値」を修正する場合は、変更箇所を朱書（見え消し）する。

※評価 A：100%（以上）達成 B：80%以上達成 C：60%以上達成 D：40%以上達成 E：40%未満

## ＜令和3年度実施計画（報告）＞

番号	取組	取組の説明	期待できる効果	評価指標	評価	分析・課題
1	ネットワークの拡張と生徒による成果発表機会の拡大	静岡県立大学やNPOとの連携を母体とし、静岡大学、静岡市役所、市内企業等とネットワークを拡張し、本校探究活動に係る連携や支援を受ける。生徒による探究活動の成果発表を生徒自らが情報発信する。	外部からの意見による事業の修正、カリキュラム開発、生徒の成果発表の機会の増加、情報発信能力の向上、主体的な学びの姿勢の醸成	ネットワークの拡張成果及び連携の質的な向上 生徒の成果発表の回数		
2	県立大学と連携したSDGsに関する探究活動の実施	静岡県立大学より本校SDGsに関する探究活動について、全面的な協力を得られることとなっており、授業、ゼミへの参加、教授からの指導を受け、探究活動の充実を図る。	フィールドワーク等学習の進め方や学び方に係る助言、主体的な学習態度の育成、専門的知識の習得、SDGsに関する実践力の育成	県立大学のSDGs関連セミナー等への参加者延べ30人以上、本校の探究活動等への県立大学からの指導、連携の回数10回以上		
3	NPOや市役所と連携したSDGsに関する探究活動の実施	現在、NPO法人しずおか共育ネットと連携している。今後市役所との連携も進めて、ネットからの間接情報ではなく、現場で実体験し、考える機会を創出し、解が見つけない課題に挑み、オリジナルのアイデアを出せるような人材を育成する。	フィールドワーク等学習の進め方や学び方に係る助言校外での探究活動による視野の拡大、関係者の思いへの共感や寄り添いの精神、学校にはできない企業や個人等との橋渡し	NPO法人や市役所等との連携の回数20回以上		
4	探究活動推進室の活動の充実、教科横断的なカリキュラムの検討	探究活動推進室を中心に、総合的な探究の時間の展開と各教科内の探究活動の一層の導入推進を図る。また、学際的・領域横断的な指導体制を確立する。	3年間を通じた学校総がかりの探究活動により深い学びの実現、探究心の育成、高大接続を踏まえた授業改善の推進	SDGsの達成につながる取組を実施している教科の数		
5	研修課主催の教職員研修の実施	探究活動における教員の指導力（コーディネイトの方法等）の向上を図るため、外部機関の協力を得て教員研修を実施する。	教員の指導方法の多様化、生徒の実態把握、授業改善	有益な研修であったと評価する教員の数		
6	内湖高校（台湾）とのオンライン交流	令和元年度まで実施した修学旅行時の同校訪問事業を受けて、昨年度からは県地域外交課と県地域振興交流協会を通じた同校とのオンライン交流を継続している。目的はSDGsに係る探究活動の深化と英語によるコミュニケーション能力の育成である。	課題意識の深化、他国高校生との交流を通して英語でのコミュニケーション能力の向上、根拠をもって他者に自分の意見を述べる主体性の育成	オンライン研修に参加する生徒の数		
7	英語研修	1・2年生の希望者を対象に、英語エンパワーメントプログラムを実施	集中的な英語討論を通じた英語力向上、国際的課題への理解、情報発信力の向上	プログラム参加者30人以上、満足度90%以上		
8	探究活動の積極的な発信	「探究学習ネットワーク」内だけの発表にとどまらず、SDGsに関する各種コンテスト、科学技術振興機構グローバルサイエンスキャンパス事業、WWLプレゼン等、探究活動の発表機会への参加を促進する。	大学や研究機関が主催する各種プレゼンテーション大会に参加交流してモチベーションと達成感の醸成	外部各種コンテスト等に20人以上が参加する。		
9	市内3大学と連携した専門教養講座と単位習得	従前から地の利を活かし実施してきた事業を継承し、1・2年生から希望者を募り、放課後に静岡大学・静岡県立大学・常葉大学の開講講座を半年間受講し、校外学習活動として単位認定する。受講した生徒は報告会でまとめと報告を行う。	大学の講義の聴講で専門的知見の獲得や視野の拡大、主体的な進路選択につながる意識の向上、探究の志の育成、専門的人材育成へのヘッドスタート	単位取得生徒数10人以上		

番号	取組	取組の説明	期待できる効果	評価指標	評価	分析・課題
10	DVD活用による学習の進め方の研究	DVDを活用した補完的な学習指導を実施し、よりレベルの高い知識を習得する。	自ら課題設定し、自ら課題解決に導くための資質能力や姿勢の育成	年間30人以上の生徒が参加する。		
11	探究活動を支える情報リテラシーの育成	SDGsに係る図書館の蔵書の充実を図るとともに、新聞データベース活用についての指導を実施し、情報収集時における留意点を指導する。	出典を確認し、批判的な情報収集の必要性を指導することで、メディアリテラシー・情報リテラシー能力を育成	探究活動に関する蔵書の充実前年比20%以上 新聞データベース活用者数延べ200人以上		
12	国際理解教育の推進	従前より実施してきたアジアの留学生との交流事業(1年生)を継続する。	多様な文化や価値観を持った人々の考え方に接し、自分の知識・技能を初期化し、無知の知状態をつくる。	多様な文化・価値観を持った人々との協働の必要性を自覚した生徒80%以上		
13	探究活動・カリキュラム開発等先進校訪問の実施	探究活動やネットワーク、特徴的なカリキュラムの先進校を訪問し、その情報を職員会議等で共有し、教育課程変更や学科名変更の参考とする。	職員会議等における情報共有を通じた教員の認識向上や学校経営意思の醸成、指導体制の改善・教育課程への情報収集	年間4人の教員が県内外の先進校を訪問。		
14	大学とコラボした理系実験実習講座の実施	これまでも実施してきた静岡大学理学部・農学部において本校生徒希望者対象の実験実習講座を継続するとともに、県立大環境生命科学科と新たに連携し本校理系生徒の知見を広げる。	大学の講義の聴講で専門的知見の獲得や視野の拡大、主体的な進路選択につながる意識の向上、探究の志の育成、専門的人材育成へのヘッドスタート	実験実習講座参加者数20人以上、満足度90%以上		
15	大学模擬授業の実施	これまでも実施してきた2年生対象の国公立大学の教授による学部別模擬授業を受講し、大学のSDGsに関する取組を含めた専門的な研究について、知見を得る。	専門的知見の獲得、主体的な進路選択につながる意識の向上、探究の志の育成	生徒満足度90%以上		
16	土曜授業の実施	本校は、土曜授業研究指定校として年間16回程度の土曜授業を実施し、複数回の学校公開を行ってきた。生徒にとっては、授業機会を増やして新しい知識・技能を常に習得させ、また公開授業見学者にアンケートを実施し本校へのニーズを探る。	土曜日にも頑張る本校生を周知、地域の中学生や保護者が本校に求める学びを把握、学科の名称変更や新たな学びや教育課程変更へのニーズを把握、土曜授業の仕立ては常に検証と修正が必要	土曜授業学校公開参加者数1600人以上、参加者対象アンケートを実施し参加者満足度90%以上		
17	小学生学習支援ボランティアの実施	2年前より、教育学部や保育系への進学を志望する生徒を中心に実施している近隣の千代田東小学校での児童への学習ボランティアを継続する。学習や遊びにおいて、SDGs的な切り口を交えることで、高校生と小学生の双方の新しい学びにつなげる。	小学生に、SDGsを理解させる工夫を通して自分の知識も深める、進路選択の明確化、学校の良さを伝え小中学校教員の志望者を増やす、本校も教育活動や本校の生徒の良さについて地域住民への周知	参加生徒年間30名以上		
18	高大連携課題研究プロジェクトへの参加	昨年度から静岡大学と行っている連携プロジェクトに参加し、新しい知見を得る。	大学の講義の聴講で専門的知見の獲得や視野の拡大、主体的な進路選択につながる意識の向上	プロジェクトに参加した生徒の満足度90%以上		

※評価 A:100%(以上)達成 B:80%以上達成 C:60%以上達成 D:40%以上達成 E:40%未満



